

有識者意見の概要及び意見に対する対応

1. 調査研究課題名「訪日外国人旅行者の国内訪問地域分布予測手法に関する調査研究」	
2. 有識者意見の概要及び対応 有識者：兵藤 哲朗氏 東京海洋大学 流通情報工学科 教授 岡本 直久氏 筑波大学 システム情報系 社会工学域 教授 清水 哲夫氏 首都大学東京 大学院都市環境科学研究科 観光科学域 教授	
意見の概要	意見に対する対応
<ul style="list-style-type: none"> 訪日外国人旅行者数の属性毎の時系列変化を確認する際、観光庁「訪日外国人消費動向調査」が実施される以前（2010 年以前）のデータも活用してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 観光庁「訪日外国人消費動向調査」に加え、日本政府観光局（JNTO）「JNTO 訪日外客訪問地調査」のデータ（2005～2009 年）を活用し、訪日外国人旅行者数の時系列変化を、訪日経験（ビギナー／リピーター）及び訪日形態（団体旅行／個人旅行）ごとに確認した。
<ul style="list-style-type: none"> 訪日外国人旅行者が、訪日旅行の経験を重ねることで、定番ではない旅行先を訪れるようになる傾向を捉えられると良い。リピーターは最終的に訪問地が特定の地域に集中する傾向があるかもしれない。あるいは、来訪しているうちに地域への理解が深まり、周遊するようになることも考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 訪日経験（ビギナー／リピーター）別に流動を整理することとし、訪問ルートを複数定義した上で、当該ルートごとの訪問率を訪日経験別に分析することで、流動の傾向をより詳細に把握することとした。
<ul style="list-style-type: none"> リピーターについて、直前の訪日は何年前かまでは把握できない。仮に前回訪問から 10 年以上経過していた場合、初回訪問時と同様の行動となることも考えられる。国内動態の変化にも着目してビギナー／リピーターを定義してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 国内訪問地域分布に関する分析を行うにあたり、訪日回数と平均訪問県数の変化の關係に着目して、ビギナー／リピーターの定義を設定した。具体的には、訪日回数ごとの平均訪問県数を整理した上で、統計的な有意差の有無を確認し、ビギナー／リピーターの区分を国・地域ごとに設定して分析を行った。
<ul style="list-style-type: none"> 観光庁「宿泊旅行統計」の活用を検討してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 観光庁「訪日外国人消費動向調査」及び国土交通省航空局「国際航空旅客動態調査」を組み合わせ、法務省入国管理局「出入国管理統計」の訪日外国人旅行者総数に合わせて拡大推計を行うことで作成した国内訪問地域分布基礎データの妥当性を検証するために活用することとした。
<ul style="list-style-type: none"> 観光庁「宿泊旅行統計」との比較を行う際に、宿泊日数を絞り込んだ上で比較を行うのであれば、何日以内に絞り込むのか、根拠が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 対数正規分布を用いて泊数の分布を確認することとし、14 泊以下で 95% 出現となったことから、14 泊以下を条件として宿泊数を絞り込み、比較を行った。
<ul style="list-style-type: none"> 訪日外国人旅行者 3000 万人時代における宿泊施設の供給制約について検証してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 訪日外国人旅行者 3000 万人時代における宿泊施設定員稼働率を都道府県別に予測した。なお、予測にあたっては、都道府県別の受入可能延べ宿泊者数及び日本人客の延べ宿泊者数について、2014 年時点の実績が維持されると仮定した。